令和8年度　全国学力・学習状況調査結果の分析 【第6学年】

（様式4）

北区立都の北学園

国語

結果の分析	授業改善の視点	具体的な授業改善案
学習指導要領の内容のほとんどの項目で、東京都、全国の平均正答率を上回っている。中でも「(2)情報の扱いに関する事項」は全国正答率より13.7ポイント上回っている。また、評価の観点別に見ると、「知識・技能」は全国正答率より9.2ポイント上回っており、問題形式を見ると「選択式」「短答式」が全国正答率より7ポイント以上上回っている。しかし、学習指導要領の内容「B　書くこと」は全国の平均は上回っているものの、東京都と比べると本校は2.7%下回っていることが分かる。	問題2四の「引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」問題の平均正答率が東京都の平均より3.6%低い。また、3(2)「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる」問題の平均は、唯一全国平均を0.6%下回った。この二つの問題形式が引用したり、自分の経験と結び付けて書いたりする記述式であることから、書くことに課題があることがわかる。大事な所に線を引き、考えを書く活動の機会を作り書く力を高めていく。	・文章の大事な所や新聞記事を使って必要な情報を見付ける学習を取り入れる。その際に考える時間を確保し、自分で読み取ったことを書き表すことにも取り組ませる。 ・書くことに苦手意識をもつ児童が多いので、書く活動に多く取り組ませる。よく書けている文章を紹介することで、書けない児童が取り入れられるようにしたり、無理のない文量から取り組ませたりする。また、ペアやグループで考えを伝え合ってから書くようにする。

算数

結果の分析	授業改善の視点	具体的な授業改善案
学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式のどれを見ても、都の平均、全国平均を上回るものだった。さらに領域別に見るとA数と計算やB図形、C変化と関係では全国平均より10%以上上回っている。 一方で3(4)以降の問題では、正答率は平均が都や全国と比べて上回っているものの、無回答率が都や全国と比べて高い。時間内に解ききれなかったことと学力が二極化していることが要因と考える。	無回答率が高い傾向が見られたことから、問題を解決するための見通しをもたせる指導をする。問題文から既習事項や条件を整理したり、図・数直線・表などを活用して考えを可視化したりする活動を取り入れる。また、正答に至ることだけを重視するのではなく、途中までの考えや試行錯誤も認め、「まず書いて考えてみる」という姿勢を育てることで、無回答の減少につなげていく。	・問題文から「分かっていること」「求めること」を整理し、図や数直線、表などを活用して解決への見通しをもたせる指導を充実させる。また、正答だけでなく、途中までの考えや試行錯誤も価値付けをし、書くことへの抵抗をなくす。 ・児童同士の考えを交流する場も設定し、主体的に問題解決に取り組む力を育成する。